

会 議 の 概 要

会議名	令和 7 年度 第 1 回宝塚市健康づくり審議会
開催日時	令和 7 年（2025 年）10 月 16 日（木）午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
開催場所	宝塚市立中央公民館 209・210 会議室
出席委員	和泉会長、頭司委員、山岡委員、藪内委員、大野委員、木本委員、浅野委員、平田委員、前田委員、野村委員、宮本委員、西川委員、柿坂委員、野原委員（14 名）
欠席委員	額田委員、古田委員、難波委員（3 名）
1 開会 2 議題 健康たからづか 21（第 3 次）の推進について （1）健康たからづか 21（第 3 次）について （2）スケジュールについて （3）取組のまとめについて （4）健（検）診等の実績報告（経年変化）について （5）その他 健康づくり審議会の任期は令和 7 年 11 月まで。 次回委嘱時期は未定であり、令和 8 年度の審議会開催時期と合わせる予定。 3 閉会	

<議題> 健康たからづか 21（第 3 次）の推進について （1）健康たからづか 21（第 3 次）について	
（1）健康たからづか 21（第 3 次）について事務局より説明。	
<質疑応答>	
（委 員）	歯周病検診の対象が 40 歳から 70 歳に限られています。若年層や 70 歳代以上の高齢者にも歯科健診の機会を広げることにはできないでしょうか。10 歳刻みの歯周病検診も間が長すぎると思うので、今後の計画で縮めるような方針をお願いできればと思います。
（事務局）	歯科医師会には学校での健診や、40 歳以上の方への歯周病検診などを含めて、多くの協力をいただいていると認識しています。ご意見のとおり、若年層については、歯科健診の機会が少ないことや、朝食などの栄養面などの課題が多いと感じています。今後、行政で実施できることについて検討してまいります。
（委 員）	宝塚市は全国平均に比べて健康寿命と平均寿命の差が小さいようですが、何か要因があるのでしょうか。
（事務局）	本市では、兵庫県の指標である、介護保険における「要介護 2 以上」の認定割合を基準に算出しており、国の指標とは差があります。国の指標は主観的なアンケート方式を採用しています。県の指標を採用した理由は、県内他市町との比較が容易であるためです。本市は令和 2 年度時点で、県内で男性が第 5 位、女性が第 10 位と上位に位置しています。
（委 員）	身体障害者や精神障害者も健康寿命の『健康である』の対象に含まれるのでしょうか。障害者の生活習慣病予防には、検査を含めた医療が必須ですが、身体

(事務局)	障害者手帳４級の医療費助成の縮小が検討されている点に懸念があります。健康寿命での『健康』は、あくまでも要介護２以上であるかです。県の基準では障害を持っている方でも、要介護２以上の介護認定を受けている場合は『不健康』、受けていない場合は『健康』になります。健康推進課では、特定健診や後期高齢者健診などを実施しており、障害者の方にも受けていただけます。身体障害者手帳４級の医療費助成の縮小については別部署の管轄となりますが、議論に上がっていることは認識しています。市の財政が非常に厳しいということもありますが、市長としては時代に沿った行政サービスを継続していきたいということもあると思っています。おっしゃる通り、非常に苦しい状況に置かれる方もいると思いますので、ご意見は担当部署にも伝達します。
<議題> (２) スケジュールについて	
(２) スケジュールについて事務局より説明。	
<質疑応答>	
質疑なし	
<議題> (３) 取組のまとめについて	
(３) 取組のまとめについて事務局より説明。	
<質疑応答>	
(委 員)	宝塚市助産師会は市から委託を受け、小・中学校での性教育を２０年ほど実施しています。学校のカリキュラムで妊娠・出産を扱っていますが、先生方が深く話しづらく、教育として難しいなど感じるのとは、「性のことは取り扱うが、性のメカニズムは取り扱わない」ことがあります。約２０年前から養護教諭の先生方と連携し、小学校低学年から高学年に至るまで、市での性の学習について、様々な角度から取り扱うカリキュラムができています。高校生以上は義務教育ではないため、プレコンセプションケアに関する冊子が配布されていますが、高校生でプレコンセプションケアを理解するには、小・中学校での積み重ねが必要です。助産師会では、今年度は助成金をとれたので、プレコンセプションケアに関する事業を３回ほど実施予定です。また、女性の健康づくりの一環として、尿失禁に関する講座を２年連続で開催しており、約２時間で予定数が埋まり、キャンセル待ちとなりました。特に関心の高い部分であると感じています。プレコンセプションケアには人生設計が不可欠です。人生経験豊かな皆さんにも協力いただき、プレコンセプションケアに必要な栄養面のことも含めて、市と一緒に活動していければと思います。
(事務局)	プレコンセプションケアをどう学校教育に組み込んでいくかは、教育委員会と相談していきたいと思っています。栄養に関しても、栄養士会と協力しての出前講座を実施しており、学校への普及に取り組んでいるところです。学校の授業では、栄養の部分は社会科や家庭科の授業で扱われます。今後プレコンセプションケアを広げていくため、学校現場でも授業の見直しができる可能性があります。それを踏まえて両面から普及啓発に取り組んでいきたいと思っています。
(委 員)	地域のサロンで実施した医療助成課のフレイル予防講座が大変好評でした。全２回の講座を年１クールのみの実施ということでしたが、ぜひ次に繋げたいと思い、継続的に実施してもらえないでしょうか。
(事務局)	ご要望は医療助成課にお伝えします。健康推進課でも保健師、栄養士、歯科衛生士、運動指導員などを地域のサロンへ派遣し、普段の集まりとは違う、健康

(委 員) (事務局)	づくりを考える場にしてもらえればと思います、健康教育を実施しています。今後ご希望のプログラムもあるかと思いますが、それぞれ派遣元の課でどのような要望があるのか、後期高齢者の方に対しては始まって数年しか経過していないので、今後どのように展開していくのか考える必要があると思っています。 『たからっ子給付金』は他市と比べて魅力的な内容でしょうか。 『たからっ子給付金』は市独自の名称で、国の制度である『妊婦のための支援給付』に準拠しており、妊娠時と出産時にそれぞれ5万円ずつ支給する全国共通の内容であるため、事業自体に他自治体との差異はありません。人口の少ない自治体では、出産祝い金を給付している場合もありますが、近隣市では実施していないと認識しています。本市では、コープ様のご協力により、出産祝い品をお渡ししています。また、給付金の増額ではなく、産後ケア事業を始めとしたサービスに結び付けることで充実させています。
<議題>	(4) 健(検)診等の実績報告(経年変化)について (5) その他
	(4) 健(検)診等の実績報告(経年変化)について事務局より説明。
<質疑応答>	
(会 長)	胃がん検診の受診率が低い要因は、健康センターの集団検診でのみ実施しており、個別検診をしていないため利便性の面も含めて受診率が低くなっているとのことでしたが、今後個別検診などの対応は検討しているのでしょうか。
(事務局)	受診率の低下は、検診機会の提供が健康センターのみであり、検査方法もバリウム検査のみとなっていることが要因の一つと考えています。他市では内視鏡検査も増えていますが、本市は導入できていない状態です。当課としては、内視鏡検査も実施していきたい思いもありますが、予算との兼ね合いで難しい状況です。また、今後市立病院の建替えを控えており、そちらでの実施についても検討中です。
(委 員)	標準化死亡比を見ると、宝塚市は心筋梗塞がとて多くなっています。国の循環器病対策基本法がありますが、循環器医療に対する対策についての報告が何もないのが気がかりです。何かやろうとしていることはありますか。
(事務局)	直接的に循環器病検診などの名称で実施はしていませんが、特定健診や後期高齢者健診、特定保健指導、成人健康相談などの栄養相談を通して循環器疾患による死亡率を下げる取組をしています。また、前回計画時にも標準化死亡比では心筋梗塞による死亡率が有意に高いと出ていました。循環器疾患に強い病院が市内にあり、そこに入られる方が多いのも要因の一つかと予想していますが、死亡率が高い要因ははっきりしていません。
(委 員)	次回の計画策定時にも市民アンケートを実施するとのことですが、その中でも栄養に関しては個人の考え方や経済面などの要因が影響してくるかと思います。『できた・できなかった』という項目だけでなく、『なぜできなかったのか』『どうすればできるか』という具体的なフリーコメント欄も今回は入れていただきたいと思います。また、次世代へのアプローチについては、小・中学校に出前講座をしたり、イベントに参加したりしているのですが、高校生や大学生世代への事業は受託していないので、そういった世代にも何かしらの形でアプローチできるものがあればいいなと感じました。
(事務局)	アンケート調査は今のところ結果を聞くのみとなっています。そのため、実際

	に市民がどのようなことで困ってその結果になっているのかは明らかになっていません。次回の評価は令和 11 年に開始するので、その際には項目をどうすべきか検討する必要があると感じています。しかし、アンケート調査の項目が非常に多くなることで、回答率が下がる可能性も考えられます。どこまで盛り込めるかは不明ですが、次回のアンケート実施前には皆様に諮らせていただきますので、ご意見をいただければと思います。また、プレコンセプションケアを含めた高校生への啓発は、中核市以上の大きな自治体では、国費が出る対象になっているようです。兵庫県では出前講座のような事業の実施や、プレコンセプションケアに関するホームページが公開されています。公立高校には県が健康教育を実施していますが、本市はまず小・中学校から始め、将来的にはもう少し上の世代を含めた啓発もしていきたいと考えています。
(委 員)	生協の個別配送のトラックが県内で約 1,500 台走っており、事故を減らすために事故を起こした運転手に対し、アンケート調査を行っています。その結果、事故が起こりやすいのは午前中で、その約半数が朝食を欠食していました。職場でも食事の大切さについて啓発を行うことが必要と感じています。また、以前ニュースで見たのですが、食事が疎かになりがちなのか、独身男性の死亡年齢の中央値は約 67 歳とも言われており、地域・学校・職場で食事に関する啓発を進めていく必要があると思います。
(事務局)	貴重な情報をありがとうございます。
(委 員)	先ほど話が合った障害者の医療について、障害福祉基金に毎年積み立てをしており、現在約 14 億円の残高があります。市の自立支援協議会障害福祉基金活用検討会で、使い道について検討中であり、障害者福祉に関する新たな施策が提示される可能性もあります。
(会 長)	地域と職域の連携については、何か取組がありますか。
(事務局)	本市では地域と職域での連携はほとんどできていない状況です。市民の方は地域にも、職域にもいるということで、様々なところからアプローチできればと考えています。
(会 長)	では、これで会議は終了いたします。本日の議事録は、事務局と調整して私の方で確認させていただきたいと思います。
(事務局)	委員の皆様には、令和 5 年度からこの審議会に多くのご尽力をいただきましたが、任期が今年 11 月末までとなります。ですので、本日が任期最後の審議会となる見込みです。心より感謝申し上げます。審議会では、健康づくりに関する幅広い知見、それから熱意やご意見をたくさん頂戴しました。ご意見をまた新たな指針として、市民の皆様の健康寿命延伸に大きく寄与するものと捉え、今後も活動が続けてまいります。本当にありがとうございました。皆様の今後のますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。簡単ですが、閉会のご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。